

第14回 中野市立小学校及び中学校適正規模等審議会会議録

○ 日 時

平成26年3月27日（木）午後3時～午後5時

○ 場 所

中野市豊田文化センター 2階 会議室

○ 出席者

【審議会委員】

小島哲也会長、清水正副会長、北澤逸雄委員、上原一雄委員、永池隆委員、
宮入靖委員、市川和仁委員、市川大輔委員、小林健一委員、小島佐和子委員、
伊藤勇委員、中島武久委員、柴垣顕郎委員、関うた子委員、湯本一委員

【事務局】

荻原学校教育課長、杉本学校教育課長補佐、富田主査、渡辺主事補

○ 会議内容

●開 会 (15:04)

清水副会長；はい。みなさん大変ご苦労さまでございます。時間になりましたので、ちょっと過ぎましたけれどもお願いしたいと思います。会議に先立ちまして出欠の状況を申し上げたいと思います。23名中、今おいでいただいているのは13名ということで会議は成立いたします。5名欠席というお話があったんですけども、まだ追っておいでになる方もいらっしゃるかもしれません。それでは、今日は第14回でございますね、第14回の適正規模審議会でございます。只今から開催させていただきます。はじめに小島会長の方からごあいさつ申しあげ、引き続き、今日の司会進行の方をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

小島会長；みなさんご苦労様です。年度末のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。というわけで、今年度最後の審議会となります。なかなか作業の濃い回数を今、重ねていますので、早速始めさせていただきたいと思います。お手元、14回の審議会次第ということで、今日の会議事項1、2、3とございます。まず最初に用意しております事項が、聞き取り調査及びアンケート調査の報告についてということです。これに関しては前回、この審議会でこんなふう
に調査を第1、第2部会でやっていくということで、2月の末から3月の頭にかけて準備を部会でやって、そして聞き取り、それからアンケート調査とやってまいりました。今日はその報告というのは、全体集計ができて、分析もできた報告っていうことではなくて、こんなふう
に調査が行われて、今こういう状況ですっていう報告をさせていただこうと思います。それに
ついて作業部会での検討事項、第3、第4部会も含めた、今後の作業の内容、スケジュールにつ

いてご相談したいと思います。そういう訳で、まずは聞き取り調査及びアンケート調査の報告ということで、聞き取り、清水副会長さん作業部会代表として学校で聞き取り調査をやっていたので、その結果を報告いただきたいと思います。お願いいたします。

清水副会長；それではお願いいたします。2月21日に第13回のこの審議会がございましたけれども、その時に、私の方からこういう聞き取り調査をしますという内容をやや詳しく書いたのをお配りして了承いただき、それに基づいての、聞き取り調査を実施いたしました。実施したのは3月3日、月曜日と3月4日、2日間連続で3時から5時まで聞き取り調査をいたしました。そして市内15校、小学校11校、中学4校、これを2つに分けてましてですね、3日の方では、ちょっと豊田中学の方が都合がつかないということで、中野小、日野小、延徳小、永田小、豊井小、南宮中と、この6校でお集まりいただき聞き取り調査をさせていただきました。残りの方は翌日の9校で同じ時間帯で聞き取り調査をさせていただきました。時間は15時30分から17時まで1時間半です。両方、時間は非常に正確にやったつもりです。そこで聞き取りしたものを、録音したものを、全部原稿を起こして、そしてそれをまとめて、そしてまとめと考察ということで、みなさんのところにお配りしてあります。そして、このまとめの作り方については録音していただいたのを聞き取って、そのまま書いたのもあるし、その内容をとらえて、無駄を省いて文章にしてあります。しかし中身については言うていただいたとおりでございますので、そういうふうを受け取ってみていただければとこんなふうに思いますが、あらかじめお願いいたします。そしてお集まりいただいた方たちは、各学校代表ということでお集まりいただきました。代表というのは豊富な経験、小学校、中学校、あるいは都市部、山間部、あるいは支援学校、多様に経験されており、しかも中野市の学校については、精通しておいでの方というようなことで、学校でお一人選んでいただいて、参加していただきました。おいでいただいた中には、校長先生も三人でしたかね、それから教頭先生、あるいは職務でいうと教務主任の先生、教諭の先生と様々でございましたけども、学校でお選びいただいた方においでいただき、活発な意見を全員で黙ってそのまま発言なしで帰った方はおりません。全員発言していただきました。それを聞き取りまとめさせていただきました。それについて順序をおっていきたいと思います。

(聞き取り調査のまとめと考察についての説明)

小島会長；はい。ありがとうございます。どうぞどうぞ質問その他意見、これが聞き取り調査のかなり時間をかけて、代表清水委員のほうでまとめていただいた内容なのですが、まだまだ、答申案の中に盛り込むにあたっては、提案の中にもございましたように、これをどうまとめるかっていう作業が入ってくる必要があると思います。とりあえず、この段階で何かご質問やご意見あれば。

小林委員；今、お聞きしまして内容とても濃くて、よくわかりました。私が受け止めたところでは、大筋

なところ1学級20人以上、3学級があれば望ましいかなというところの中で、私も同調いたしました。というのは単学級だと競争が生まれにくい訳ですし、2学級だと勝ち負け、優劣の差になってしまって、3学級以上あるとまあじゃんけんと一緒に勝ち負けがそれぞれがあって、切磋琢磨していけるというところと、数学的な見方をしますと2学級だと2パターンしか組めないんですけど、順番を組むと例えば6パターンの組み合わせが出来ると。1学級、2学級なり、3学級になるだけで倍以上の組み合わせができるというところでは非常にこの教育の面から色々なパターンを組めるかなと、お互いにいろんな経験しながら義務教育を終えていけるかなという観点から非常に感銘を受けました。数値的なところだけ見ちゃうといけないんですけども、中野市の小中学校を児童生徒数だけで考えた場合に1学級20人、3学級を統一した場合、今の中野市の児童生徒の数で考えると、学校の数が多いのか少ないのか、ここはどうなるのかと思ひまして事務的にもし計算できるのであれば、後でもよろしいんですけど、そういう観点からもいいかなと思ひました。

清水副会長；ここからの聞き取りからも、そうやってやればやってもできないことは無いんですよ。例えば35人だと1組でしょ、長野県は、36人になれば2組になるんですよ。そうすると18人から19人位、20人前後位の人数になるですよ、それで2組になっていくと。3学級なら71人いれば3学級になると、こういうようなことだろうと思ひますけど、そうやってやれば出来るんですけども机上のプランでそれをやってもちょっと考察をすれば論が飛躍しすぎちゃっていけないかなあと思ひてやめました。それはこれから皆さんのご意見全部総合されていて決めさせていただいていくものだろうと思ひますし。それから、ただ人数だけで割ってで出来ないでしょう、中野市を一切小学校を全部ご破算にしておいて人数で割って当分の学校という訳にはいかないでしょう。それは具体的になれば非常に難しい問題が出て来ると思ひます。教育委員会のお仕事だと思ひますが、私どもは審議会のところでは、ここまでという線引きの線がありますもので、そこまでは真剣でやってみたい、そんな思ひでいます。以上です。

湯本一委員；今、小林委員さんと同じような考えなんですけど、中野市において規模に適しているのは中野小学校だけ。平野小学校もまあまあというような状態です。後の小学校は本当にもう極小学級でいくんですが、このアンケートで見えていきますと、中野市全体を本当にこの規模にもって行くのか、もって行かなければこの理想という事にはならないんですが、そのような事まで極端なことを答申の中に入れられるのか、入れられないのか。ただ聞き取り調査をしました。これを精査してやっていきますと。私の考えでは中野小学校も平野小学校もみんなひっくるめて通学再編成みたいなことまでしなければいけないというような、ちょっと私も考えが飛躍しているかもしれませんけれども、そこまでいくのではないかというふうな気持ちがこれを拝見しながら考えたんですが、その辺はどのようにお考えなんですか。

清水副会長；教育委員会から言われているところでは、小学校何校、中学が何校くらいのところまでやれと言われていたのと違うかな、その辺のところまで審議会で。どことどこを一緒にするかということではないが、何校、これは、そうですね北原さんがシミュレーションを作ってくださいましたからそういう様なことも関係しながら、あまり宙に浮いたようなことを言うてはいけない

し、その辺やっぱり根拠とすればこういう様な事も大事あれで位置づいてくるんじゃないかな。現実と理想と。だからこれまたみんなで詰めなければいけない内容ではないかなと思っていますが。

湯本一委員；事務局の方へお伺いしてもよろしいですか。

この中の討論で今の私の質問を、今、副会長さんにご答弁いただいたのですが、事務局の方へお伺いしてはいけませんかという事です。

では課長さん、どのようにお考えですか。

事務局；ここで皆さんの方に答申をいただきたいというのは、何回もお話しましたように、私どもとしてみれば今、副会長さんがおっしゃったように小学校は何校がいいのか、中学校は何校がいいのかという事がひとつです。それともうひとつは学級、一学級の数ですね。人数はどの位が一番いいのか、それとあとクラス。何学級かいいのか、そういうことを答申の中に入れていただければ大変ありがたいのですが、それは答申をお願いする時にお話ししたような気がするんですが。

湯本一委員；という事は、通学区再編という事までもいく可能性はあるんですが、それも承知の上ですね。

事務局；ここで頂いた答申を基に私ども教育委員会のほうでそれを頂いて尊重してそれから教育委員会の方で決定させていただきたいので、今ここで適正規模の審議会のほうへお願いしているのは、中野市立の小学校中学校の適正規模及び適正配置についてお願いをしているという事です。

湯本一委員；適正配置の中へ入れてよろしいんですね。

事務局；それは、場所ではないので、先ほど申し上げましたように配置に関しては、小学校で何校がいいのか、中学校は何校がいいのかという事ですので、配置まではお願いしていないので、数をお願いしているということです。

湯本一委員；適正規模と適正配置になってますよ。

事務局；適正規模と適正配置。適正規模については先ほど申し上げましたように1学級の数とクラス何クラスがいいのか。適正配置については小学校が何校ぐらいがいいのか、中学校が何校がいいのかという事でお願ひしてきているはずですが。

小島会長；湯本委員、諮問の内容についてはもうこの審議会で何度も、教育長もお呼びして確認というか我々で再確認までしてますので、アンケートの調査の依頼状にもどういふものを求められている立場にある審議会かというのを明示してますので、ただそれは適正配置という中身に何が入るのかという事まで事細かく指示されているわけではないので、我々のここの議論に待つところだろうと思うんです。ですから、今おっしゃったように統廃合のことについてどう取り扱うのかっていうのは、ここで議論しましょうよ。そのうえで、どうしても統廃合について答申案の中に盛り込む必要があるんだっていうふうに我々が合意形成できれば、そうすべきだと思います。かなり難しいことだとは思いますが。実際には、第3部会の前々回ですか、審議会で資料まで出しましたが。そういう話題が当然、出てくる可能性はあると思うんですけども。本当に我々の審議会でそれを出すべきか、どうですかっていうのは議論しましょう、それは当然必要だと思います。

湯本委員；ということはここにも書いてあるとおり、第4部会の問題が、これが決まらなければ、第4部会が動けないんですよね。これだけご理解をいただきたいんですが。ただ空論でもって終わってしまう、関さんともお話しをするんですが、だいたいの目安がついた時に、この学校と学校を支える地域学校の伝統の継承というものを考えていくにはある程度のものでなければ、第4部会のほうはどうも前へ進まないような私には気がするんです。だからそこまでいくと、やっぱり適正規模、適正配置というものの、ある程度はつきりしたものが出てから、今の学校を支える地域、学校の歴史・伝統といったものはどういうふうにするのかというようなことに繋げていけるのかなと思うのですが。そんなことで意地悪な質問をしたのですが、今の回答というか答弁ではまだ霧の中というかモヤモヤした形も見えないというような状況ですので、その点も会長さんとしてもご理解いただければというふうに思うんですが。

小島会長；はい。実務的にいえば、聞き取り調査とアンケート調査、これを先行して、この4月あたりに、まとめ、集計が出来ますので、それを経て第3、第4の北原さん、湯本さん代表でやっていただく作業を加速していただければとお願いしたとおりです。確かに先は見えないかもしれませんが、ただ、結果が出ないと何もできませんということでは、やっぱりだめだと私、思っております。ぜひ作業部会の中でいろいろ意見を戦わせて頂ければと思っています。他に。

清水副会長；上原委員さん、一緒にやっていただいたので。

小島会長；どうぞ。

上原委員；今の話とはずれて元に戻りますけども、私も聞き取り調査、一部一緒に参加させていただいて感じたことは、現場の先生達が非常に子供の様子とか教室での様子からこの項目に対して答えてくださってるなということとをどの参加者の発言からも感じられて、非常に参考になりました。それからもうひとつ感じたことは、今の先生方が今の学校教育の中で目指していらっしゃる授業像だとか、それから子供の育ちへの願いだとか、そういうものが人数を語ってるんですけども、いろいろ出てくるなと。少し具体的な話になると、今、授業っていうのは子供が主体になって学んでいくっていう姿をどれだけ支えてあげるかという発想で教室は営まれていると思うんですね。そうすると、長年取り組んでいるんですけども、子供達自身が今日は何を勉強するんだってことをしっかり掴んで、その後、具体的な操作したり、討論・対話をしたり、あるいは1人でじっくり自分の考えを見つめる時間を取ったり、そういう多様な学び方を通して、皆でもああだこうだという場面も色々できていますけれども、自分の考えを見つめなおしたり、まとめたりすることがあって、最後にこの時間こういうことを勉強したね、学んだねって一人一人がまた自分の中に定着させていく、そういう授業を目指してる。そのことと、人数とか規模を考えると先生方の発言は具体的な子供や教室のことを今、目指してるものも含めて語って頂いてるなというふうに思います。ですので、出てきたものを一つの結論に導いていくのは大変難しく思うんですけども、副会長がまとめてくださったように、複式は避けたいこれはやはり共通した願いだったと思いますし、望ましいのは30人規模の学級。要するに20人台の学級ですね。それで、理想的には3学級あるといいなと。これは理想ですから、そんなふうに機械的にやっていくのかっていう話になっちゃうと、そうではなくて、先生方が今、目指し

ているものとか、子供達の様子から考えられることは、理想としてはこんなのがあればいいな
っていう。そういうことが、この聞き取り調査の中で浮き彫りになったので、これも現場の声
として大事に、これからこの審議会でも位置づけていただいて、他の保護者の意識とかあるい
は学校と地域っていう非常に最終的には非常に難しい課題かなと思うんですけども、そういう
ところからみて、適正規模とか適正配置はどういうふうに考えられるのかっていうことをいろ
いろ聞かせていただく中で、清水副会長おっしゃられたように、この聞き取り調査の結果と各
部会が進めていることを照らし合わせながら、最終的にはここで議論が深まっていけばいいな
ということを感じさせていただいています。以上です。

小島会長；はい、ありがとうございます。今の上原委員とも関係するんですが、清水代表、聞き取りの対
象になった先生方が、現場の代表的な先生に集まっていたという事ですので、是非、ど
ういう方が集まったのかというある程度のプロフィールをまとめていただければ、より説
得力はあるなと思います。具体的に1年目の先生が来たのかとか、どういう役職の方なのか、
中野市で何を経験されたのか位の事がわかればいいかなと思います。意外と何人集まっただけ
では、どういう方が発言されたのかわからないという事になるから。

上原委員；役職というよりは、経験年数だとか、大事なのは大規模校とか小規模校のまたそのうちの内訳
みたいなものがあるといいのかなと、ぐらいただとおもうのですが。あまり役職にとらわれてし
まうと。

清水副会長；お願いする時は今、会長さんが言われたようにしてお願いしたわけで、最大限そこに合うよう
に選んでいただいた。だからその実態はどうかという事です。

小島会長；そうです。我々は審議会を構成しているのに中野市の代表ですだけでは済まないの
で、どう
いう背景でどんな人が集まっているのかという事は大事な情報だと思いますけれども。是非ま
とめていただいて。支障のない範囲で。

清水副会長；あんまりやってしまうと個人的なものになってしまうから、その辺のところ
で考えてやってみ
ます。

小島会長；さて、いかがでしょう。なければ第2部会のほうでアンケート調査の集計、今、作業中
ですけ
れども速報という形で報告をさせていただきますが、よろしいですか。

そうしましたら学校の保護者の方を対象にしたアンケート調査について、まず私のほうから発
言させて
いただきます。前回の審議会でこういう形でアンケート調査をやろうと思っ
ていると
いう事を柴垣代表と一緒に報告させていただきました。その時にアンケート調査の依頼状、前
書きの部
分はいくつかの点でまだ検討して会長の私の責任で取りまとめてアンケート調査の
依頼をし
ますという事でお話ししたとおりです。それでその事も含めてちょっと私のほうから
説明させ
ていただきます。お手元の資料に実際にアンケートの調査をした時の保護者の方への
依頼状と
それからそれに添えた資料、そしてアンケート調査の質問紙、回答用紙一緒ですけれ
ども。資
料に入っていると思いますけれども。

入っていない？そうしましたら1部だけで、3種類配る必要はないので配っていただい
て。す
いません間もなく来ると思いますので。

依頼にあたっては3月の3日でしたか、市の校長会が開かれましたので副会長の清水委員のほうから聞き取り調査の依頼を含めてアンケート調査を行うのでよろしくという説明をしていただきました。そしてその1週間後に学校へ実際に配布をしていただいて、約2週間位をかけて回収をいたしました。3種類のアンケート、ひとつは4月に小学校へ入学する予定の来入学児童の保護者。それから小学校の全学年、そして中学校の全学年という事です。実際にすべての児童について保護者に回答を求めるといふ事になりますと、非常に数が増えますので、兄弟が中野市の小中学校にいる場合は、一番年長のお子さんにかかわる回答をよろしくという事で、例えば小学校に2人、中学校に1人同じ家族の兄弟がいる場合は中学生にお願いする。そんなふうにして保護者の負担軽減を念頭に置いて児童生徒数の総数よりは4割方だろうと思うのですけれども少なくなっております。今、配っていただいているのが黄緑色の小学校用のアンケート調査です。その中にまず一枚の白い紙でアンケート調査への協力をお願いという事で会長名で保護者あてにごあいさつを兼ねた審議会の趣旨も書き添えました。その裏側に事務局でこの審議会用にも提出していただいた統計資料に基づいた資料2つ、児童生徒数の推移それから学校別の推移という事でやや小さくなって見づらいかもしれませんが、そういうデータも添えて依頼をしました。緑色の小学校用のアンケート調査で3種類の調査を代表してちょっとお話しさせていただきますと、小学校用も中学校用も、「はじめに」それから「質問項目と回答方法について」同じです。この部分は来入学児童の保護者向けのフェイスシートと全く同じですので、「はじめに」のところをご覧ください。「はじめに」のところ、中野市の現状を資料の1と2を参照してくださいという形で説明させていただきました。「私たちが中野市では、少子化や過疎化の進行により市内の小中学校の児童数、生徒数が以前に比べて大きく減少しています。国が定める小中学校の規模は・・・」ということで、前回審議会でお示しした数字を挙げて「この基準によれば、中野市では中野小と平野小を除く9校（小学校）はすべて小規模校という事になります。」という現状認識を踏まえたうえでこのアンケート調査に協力していただきたいということ。それからもうひとつは国や長野県の現状をどうしても触れたいという私の意思もありまして、北欧の現状等については答申の中に盛り込む必要があるが、アンケート調査では国の課題、それから長野県のそれに対する取り組みということで中段の部分、書き加えさせていただきました。こういうことです、「現在、学校教育の現場は多くの困難な課題を抱えています。これらの課題への早急な対応が求められる中、国は「教育の質の向上」につながる重要施策のひとつに「少人数学級の推進」を位置づけ、学級規模と教職員配置の適正化に向けた具体的な検討を開始しました。」これはもうここ数年の取り組みの報告が上がっております。今年度も4月以降もどんなふうな取り組みがなされるのか非常に注目するところなんですけれども、我々のこの審議会の答申にも大きく関わる事だろうと思っています。すいません続けます。「一方、多くの自治体では国に先行して、地域の実情に合った独自の基準による取り組みを行ってきました。たとえば・・・」という事で長野県の取り組み「平成21年度から小学校の少人数学級化（1学級あたり35人まで）を段階的に推し進め、平成25年度には小1から中3までの全学年で「30人規模学級」が実現されています。」という事を書き添えまし

た。こんな中で中野市の皆さんに審議会として以下のような質問に答えてもらいたいという事
でお願いをし、回答のところについてはちょっとややこしいかもしれませんが、○を付
けてください。それから自由記述の部分もありますよという事を書き写して、個人情報の守秘
義務について、取扱いについての注意を書いております。あと、回答者と子どものプロフイ
ールという事で、ここが若干配布した学校で統一されてなかったという事があり得ますので、
回収率にちょっと影響はしてくるんですけども先ほど見たように中野市内の小中学校に兄
弟が通っている場合は年長の子供さんについて回答していただくという事をお願いしました。
めくっていただくと黒丸で1番、2番、3番と大きな項目3つに分けた質問が並んでおります。
ここは前回の審議会で柴垣委員のほうから大体こんなふうになりますということで提案をし
ていただいた通りです。幼稚園それから保育園の来入児に関しては一部の質問、①の問1 a b
というところは来入学時の保護者には無関係の質問という事で、問2から質問していただくこ
とになっております。それ以外は3種類の小、中、来入学児童共通の質問になりました。現在、
集計が進んでいます。それから回収された回答の自由筆記の欄に結構意見をいただきました。
貴重な意見がありますので、そこが真っ白な場合だとアンケートを取ってもあまり面白くない
というか、ところなんですけれども、気になって回収された回収用紙を見ましたら結構いろん
な意見が記載されていたのでこれからの集計が面白いところなんですけれども、実際、実務的
に集計作業をやっていた代表の柴垣委員の方から報告をいただきたいのですけれども、
よろしいですか。全部喋っちゃってもいいですか。

柴垣委員；はい、全部喋っちゃってください。

小島会長；どんなふう集計を今していたのかだけ、ちょっと紹介をしていただければ。

柴垣委員；具体的な進み具合としては、小学校の部の自由筆記以外の打ち込みだけが終わっています。そ
れだけでもいくつかの傾向は現れはじめていますが、まだちょっと全体の集計になっていない
のでまとまった後で見やすい形にして発表したいと思います。集計のただ単純に1がいくつ、
2がいくつかではなくて、クロス集計といいますかここで2、3に○を付けた人は次の問では
どの位の人数を選ぶ傾向が出ているというように、先ほどの教員の聞き取りと同じように、た
だ結論だけではなくてそこに至る根拠や理由も含めてわかるような集計が出来る形で進めて
います。まあ抽象的に言いますとそんなことなんですけれども。あと、まあ具体的な事は今後のや
り方も含めて小島さんのほうから話していただいた方がいいかと思います。

小島会長；はい。どうしても部会の中で共同で作業をしてきましたので、かなり時間をかけてやってきて
おります。事務局から集計の状況のメモをいただいています。小学校だけでいえば、アンケート
の調査用紙を配布した総数が1,507、回収できているのが1,275という事ですので約
85%。もう学校は春休みに入っていますけれども、家庭から戻ってきたんだけれどもまだこ
ちらに届けていないというのが若干あるかと思いますが、まあ、それはともかくという事
でこの4月の頭にかけて集計作業を急ぎたいと思います。まあ、8割を越える回収率ですので、
学校経由だから100%って事にならないのが残念なんですけれども、それでもアンケート調
査としてはまあひとつハードルを越えたかなという気持ちです。内容なんですけども内容につ

いては今、柴垣代表の方からお話があったように、単純な集計だけではこの手のアンケート、どういう意識を保護者の方が持っているのかわからない。ですので、ある質問項目ともうひとつ別の質問項目をクロスさせるとか、それから回答者の保護者のプロフィール、例えば小規模校の保護者、低学年の保護者は、そうでない学校、そうでない学年と比較してこうだっていうふうな、比較対象させるような分析ができればいいかなと思っています。複雑な分析はきっと技術的には出来ると思うんですけども。我々に要請されていることは、市民のみなさんによくわかる形で、審議会のやってることを、示すってということだろうと思いますので、あまりデータを駆使して、複雑な、論理的な話を持ち込むのではなくて、出来るだけシンプルに結果を示すようにやりたいと思っています。その為にはちょっと時間がかかるので、私としては小学校がだいたいもう集計終わってますので、その分析に入る。そして、中、幼保の回収が全部終わって、それも加えて約1か月4月をかけて分析し、聞き取り調査を加えた調査全体のまとめ、それから同時並行で第3、第4部会で議論していただいた内容と組み合わせた、いわば答申案に向けた議論の素材をしっかりと作りあげておきたいな思っております。今、配っていただいたのが来入学児童用ですね。伊藤委員来入学児童用アンケートに関してなにか補足あれば。よろしいですか。以上、報告を簡単にさせていただきましたけども、なにかご質問、ご意見おありでしたらお願いしたいと思います。出来るだけ回答しやすいようにアンケート用紙は作成しましたが、それでもやっぱり回答がまったくなくて、丸つけないで回答の記入を忘れてしまったという方が散見されました。

先ほど言ったように自由筆記やその他のせまいところにいっぱい書いていただくという回答もありました。事務局のスタッフの方達にはその解答用紙をひとつひとつ入力作業を年度末のお忙しい中やっただいて非常に助かっていますがまだこの先ちょっと続くんで、年度末の休みもなくなるかっていう気がして申し訳ないんですけども。何かございますか。永池先生、補足ありますか。

永池委員；回収率、多分中野小が9割5分を超えているくらいだと思うんですが、集まってきていたので、関心があるというのはありがたいなと思って、数は出さなかったんですけども、各担任も25人中23人とか全員出ましたとか、声が多かったのととてもありがたいなと思いました。

小島会長；中野小や長丘、平岡と90%遥かに超えて、低いところもそれでも60%は超えていると。

湯本委員；ちょっとよろしいですか。うちにも来たから見てたんですが、ちょっと心配というか、集計する段階で、この少人数意見というのはどのように扱うのか。それから学校別の集計というのは無理なんですよ。集計というのは。

小島会長；いや、出来ます。

湯本委員；そういったことをしないと、先ほどもちょっと申し上げたんですが、大規模校というか中野小学校から平野小学校の場合は、すでに各クラスもありますし、単級じゃないので、こういったところにあてはまるものがどうなのか。それから集計でもって何%ってやっちゃうと、いわゆる規模の大きい学校と規模の小さい学校の差というものは、どこでもって現れるのかなということがひとつ。それから一番はこれみて思ったんですが、十年後とか二十年後とかいう、未来

に向けてのことがひとつも書いてなかったというのが、私も発言すればよかったと思うんですが、本当に年々もう減少してるのは分かってるんですが、そういったものをどこで最終的にこの答申の中に入れていくのかということに、今になればなると思うんですけども、そういったものを考査するようなものがどこかに、すでに回収されている中で考えられるかなというようなことを思いました。

小島会長；はい。いくつかポイントがあったと思うんですが、小規模校、あるいは超小規模校のサンプルは確かにこの中野市の小学校の中でばらつきがありますから、非常に比率的には小さいものなんですよ。具体的な数を今、手元の資料を見ると倭だと配布された調査用紙41。回収が29。7割の回収率なんですけども。中野小だと480ということで、10倍以上になってしまう。ですから、当然サンプルが全然違うわけで、意見がポンとこう出ても、全体からすれば極々一部の意見というように見られがちなんですけども、同じ条件で、小規模校の中でっていうふうに見れば、またクローズアップされてくるっていう。まあ調査の時には誰にどういう形で聞かかっていう条件を常に考えておかないと貴重な意見が抹殺されるとかということになりますので、そこは充分気を付けたいと思います。それからもう一点、十年後、あるいは十年先ってことを。っていうのは、湯本さん、前回もそういう意見をいただいたのですが、アンケートだけで答申の内容決まるわけではないので、アンケートの中からそういう意見が出てくれば非常にいいだろうし、なくても我々がある程度、想像力を働かせあるいはデータに基づいて、そうした意見を答申案の中に盛り込むことは当然可能だろうし、期待されているところだと思いますので、その部分は、委員として良い意見を出していただければ、アンケートにないから全然触れませんということではない。

湯本一委員；それだけお願いしたいです。

小島会長；他にいかがでしょうか。

小林委員；先ほどの話とかぶってしまいますけれども、勝手にちょっと計算してみました。20人一学級で6学年、3学級だとしまして11校。かけますと3,960名の小学生がいないとこの規模を均等に維持できない。それで11校に対して3,960名必要なんですけれども、アンケートからすると全学年対象にしても2,564名なので、割りますと64%、11校ですから×64%で7校、4校減らさないとこの20人の3学級を6学年、全市で維持できない。というところで私どもの答申にふまえていかなければならないところで「数」というところで答申しなきゃいけないんだと思うんですけども、今のところこの聞き取りの中だけでだと、やはり今の中野市の小学校の数自体は大いに適っていると思いますね。アンケート結果はこの件に関してどういうふうな集計になるかちょっとそれをふまえて思う訳なんですけれども、やはり最終的にはこういう計算も必要になってくるかなと、個人的には思いました。以上です。

小島会長；学校数の話ですよ、望ましい学級数とか。

小林委員；聞き取りの結果からすると清水副会長が言われたとおり、大まかに20人以上は必要かなと、それで学級数は3学級が必要だと、それをかけて市内の小学校と比較するとちょっと多いなど。中学校にいきますと20人一学級、3学級あって3学年で4校ありますので720名、中学1

年生から3年生まで1,414名にアンケートを取っていますので、倍いますのでこれはもう今のままで問題は無いと判断できると思うんです。小学校だけが問題がある。そういう数の計算ですけども、そういう見方も必要になってくる、答申の中に入れてわかりやすくいけるのかなと。地域性とか適正配置はもちろん重要ですので度外視は出来ないのでけれども皆さんに公開したうえで判断する指標になるのかなと思います。

小島会長；第3部会のシミュレーションの議論の中で取り扱う内容にもなるかと思いますが今日、北原さんがお休みだから何とも、きっとご意見のあるところだと思いますけれども。他にいかがでしょう。なければ残り予定の時間で30分になりましたので、今日の会議事項の予定の作業部会での検討事項についてとありますが、先ほどからもうこれに係るいろんなご意見いただきました。今後の作業日程を提案させていただいて年度が替わりますので、この審議会のメンバーの人員が変わるのかちょっと心配しているんですが、一応その事はさておいて4月それから5月に向けた作業日程を相談させていただきたいと思います。冒頭お話をさせていただいたように今回のこの聞き取り調査それからアンケート調査がおこなわれて今、聞き取り調査についてはもうほとんど、テープ起こし、議論、取りまとめ、考察まで今日ご報告いただいた形で何とか収束しているという作業の大事なところは終わったかと思いますが、アンケート調査はまだ集計中です、分析もほとんどまだやられていません。その時間に4月をいただいて、次回のこの審議会は5月の連休明けに開きたいと思っております。5月の半ば候補日は5月の15日の木曜日ということで予定はしているんですが、これはこの後、最終的に決めたいと思います、それまでの間に主に調査、第1第2部会で行った聞き取り調査それからアンケート調査の集計分析、突合せをやり、かつ、第3第4部会で答申に向けた議論を進めていただきたい。そして必要であれば今まで第3第4部会のメンバーの方達と第1第2作業部会のメンバーがそれぞれの検討材料を持ち寄って話し合うということをしてませんでしたので、必要であれば、私はぜひ湯本さんと膝を突き合わせてとは言いませんけれども、直接お話を、アンケートの結果こうなったんだけどどうでしょうというような話を審議会の前にはやっておきたいなと思っています。その投げかけはまた個々にやりたいと思いますので是非、ちょっと間が空いてしましますが5月の半ばまで今のような準備作業の時間をちょっといただいてそれで15回、新年度1回目の審議会を開きたいと思います。いやー、そんなゆっくりやっていたんじゃないけども結論出ないよというふうにお叱りをいただくかもしれません、4月は学校関係の委員の方も忙しいし、私も実は学校関係なのでちょっと合間をぬって作業をしたいと思いますので連休明けに次回の審議会をまず開かせていただきたいということ。そしてそれまでに今言ったような各部会あるいは各部会間の作業をやらせていただきたいという事をお諮りしたいのですが、具体的な提案でなくて申し訳ないですが、アンケート調査の分析についてはもう日も決めて4月中に集まりを持とうという事になっています。何かご意見ありますでしょうか。あまり審議会を先延ばししてその間に何がやられているか良くわからないということにならないように、例えばアンケート調査の集計分析が出来た段階で資料を前もってお送りするという事を事務局の協力をいただいて皆さんへ資料を送らせていただこうと思っています。よろしいでしょうか。

具体的な何か提案がもしおありでしたら。なければ今のような作業スケジュールで調査、それから各部会の検討のまとめを5月の先ほど言いました日取りで15日の木曜日、3時から。会場はここでいいですか？この豊田支所ということで開きたいと思いますが。

上原委員；15日木曜日ですね。ちょっと学校関係は。教頭先生は完全にだめです。校長もだめだね。ここにいるメンバーはみんなだめです。

小島会長；16日金曜日は私はいいんですが、事務局のほうが教育委員会の関係で皆さんお忙しいようですから。

柴垣委員；事務局は別にいなくてもいいんじゃないですか。

小島会長；それも手かと思うんですけども。

柴垣委員；課長、いいよねいなくても。

小島会長；そういう大胆な発言がありましたけど。

事務局；実は教育委員長が変わるかもしれないという事があるので、もし変わった場合にはご挨拶をさせていただこうかなと思ったので。金曜日でも私どもは大丈夫です。

小島会長；上原委員どうですか。金曜日だったら。

上原委員；大丈夫かなと話をしているんですが。

小島会長；5月16日、どうしても都合が悪いという委員の方いらっしゃれば挙手をお願いします。じゃあ、申し訳ありません。先程言ったのを訂正して5月16日金曜日、3時から。次回の審議会を開かせていただきます。今、確認させていただいたのは向こうまあ1ヶ月半という事なんですけれど、その先の予定としては6月に答申案を原稿の形で原案を提案させていただいて、7月に最終案、ここで決定までいければ暑くなる前に我々の仕事を終わらせることが出来るかなというふうに思います。1学期中に仕事を終わらせます。夏休みを挟まない。そうすると打ち上げでおいしいビールが飲めるかというところですけども。そんな甘い？是非、そうしたいなと思っていますけれども。前向きに検討してください。以上作業部会での検討事項という事で次回の審議会のスケジュールも含めて提案させていただきました。これでOKという事であれば、その他を。

柴垣委員；審議会委員で変わる予定がわかっている人がいたら。

事務局；小中学校の関係で日野の山岸校長先生、ここで退職でいらっしゃいますので。お一人校長先生は変わられます。それと大変申し訳ないですが区長会の関係なんですけど、私どもも区長会のほうに3人お願いしております、中島委員につきましてはここでまたもう一年やっていただくという事でご了承を得ているんですが、あと二人のところには是非9月までとお願いしたんですが、辞退をされましたので、ここの2人は欠員という事でやっていきたいと思っておりますがよろしくをお願いします。

柴垣委員；代わりの人は頼まないで。

事務局；ここで区長会でおみえになっても、今までの動きという事でその辺が大変じゃないかなという事で判断いたしましたのでご理解よろしくをお願いします。

柴垣委員；山岸さんの代わりは来るんですか。

事務局；それは校長会のほうからお願いします。

上原委員；代わりを、この時期から大変ですね。

事務局；大変なんですけど9月までなので申し訳ありませんがお願いします。

小島会長；山岸委員の後任は日野小の新校長さんですか。

事務局；それはちょっとまだ、校長会のほうで。

上原委員；校長会で相談させていただいて。

小島会長；よろしいですか、他にございますか。なければちょっと早めで。

清水副会長；ではよろしいですか。会長さんの進行で15分ほど早く終了できました。ご熱心に検討ありがとうございました。以上をもちまして第14回の審議会を閉じさせていただきます。ご苦勞様でした。

4 閉 会 (16:43)